

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たのしい りーふ2単位 (児童発達支援)			
○保護者評価実施期間	2026年2月9日		～	2026年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	2026年2月9日		～	2026年2月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	国の配置基準より多い職員を配置し、きめ細やかな療育を行っている。	個別の対応が必要な子どもには、個別の対応ができるよう職員配置をしている。	職員同士の情報共有をさらに徹底していく。
2	経験豊かな理学療法士、言語聴覚士、音楽療法士がいる。	理学療法士、言語聴覚による個別療育を実施。 集団療育で音楽療法士によるプログラムを実施。 専門職からの助言を日々の療育に活かしている。	理学療法士、言語聴覚士による個別療育を実施していることが周知できていないので、広く知らせていく。
3	児童発達支援の集団療育に関わる職員全員が保育士や教員免許などの有資格者である。	今までの経験を活かすプログラムの立案。 保護者へ今までの経験を伝えながら、就園就学に向けた話を行う。	今までの経験を活かし、就園就学に向けた小集団だからこそ行える療育について引き続き話し合っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後等デイサービスとの多機能事業所のため、場所の調整が長期休暇中など特に必要になることがある。	児童発達支援、放課後等デイサービスのそれぞれの活動を保証した場所の確保や調整が必要なため。	放課後等デイサービスの子どもと触れ合う機会を作り、子ども同士の関わりを広げていく。 中庭での活動や外遊び、外出など活動場所を事業所以外に広げ調整する。
2			
3			